

日本室内楽アカデミーソリスト&N響メンバーによる 40th ベストセレクションコンサート

1月17日、電気文化会館ザ・コンサートホール 文——伊藤美由紀 写真提供——日本室内楽アカデミー



ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲第2番 vn：大倉彰人、P：世古藍



ショスタコーヴィチ／JAZZ 組曲より 背景には宮殿が映し出された

1985年に4名の奏者により日本室内楽アカデミーを立ち上げて以来、ピアニストであり理事長の佐々木惇利子により40年間名古屋を拠点に地域文化への貢献を含めた多彩な活動を継続。今回、その40周年の記念公演となった。

前半1曲目は、佐々木が委員長を務める名古屋演奏家育成塾主催により昨年開催された第40回「ベストソリスト賞」コンペティションで第1位を受賞したピアニストの世古藍と第2位のヴァイオリンの大倉彰人によるショスタコーヴィチのヴァイオリン協奏曲第2番。ロシアでショスタコーヴィチの研究に取り組んできた大倉のヴァイオリンは、説得力のある演奏であった。ロシア的な重厚な音色による圧倒的な迫力による熱演は観客を魅了した。

2曲目は、日本室内楽アカデミーソリストとN響メンバーを含むピアノ、弦楽器、打楽器の編成10名により、陽気さと哀愁の漂うショスタコーヴィチのJAZZ組曲第2番よりを軽快に披露。

後半も同じ10名のメンバーによる演奏で、ベートーヴェンの交響曲第5番（フンメル版）。ベートーヴェ



ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」



アンコール ラヴェル／ボレロ



カーテンコール

ン・ツィクルスの公演で取り上げた際は6名での演奏であったが、今回は若手奏者が加わり弦楽器が2名ずつとなり華やかさが増した。舞台上に投影された演出により宮廷サロン・コンサート風の雰囲気作りで観客を視覚的にも楽しませた。

アンコールは10名によるラヴェルのボレロ。地方で若手奏者が演奏会へ参加する機会を与える取組みを続けることは貴重であり今後の活動も楽しみである。

◎

●プログラム

ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」
シヨスタコーヴィチ／
ヴァイオリン協奏曲第2番
JAZZ組曲より

●出演

ピアノ…佐々木 侑利子
N響メンバー
ヴァイオリン…木全利行、嶋田慶子
ヴィオラ…飛澤 浩人
チェロ…藤村 俊介
日本室内楽アカデミーメンバー
ヴァイオリン…大倉彰人、松本陽輝
ヴィオラ…松実健太
チェロ…小川剛一郎
パーカッション…長谷川裕祐
ピアノ…世古 藍